

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成30年6月28日(2018.6.28)

【公開番号】特開2016-6636(P2016-6636A)

【公開日】平成28年1月14日(2016.1.14)

【年通号数】公開・登録公報2016-003

【出願番号】特願2015-106100(P2015-106100)

【国際特許分類】

G 0 6 F 3/041 (2006.01)

H 0 5 B 33/02 (2006.01)

H 0 1 L 51/50 (2006.01)

H 0 5 B 33/14 (2006.01)

G 0 6 F 3/044 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 3/041 6 4 0

H 0 5 B 33/02

H 0 5 B 33/14 A

H 0 5 B 33/14 Z

G 0 6 F 3/041 4 1 2

G 0 6 F 3/044 1 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成30年5月18日(2018.5.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 の可撓性基材と、

第 2 の可撓性基材と、

前記第 1 の可撓性基材と前記第 2 の可撓性基材との間の封止材と、

検知回路と、

発光素子と、を有し、

前記検知回路は、トランジスタ部を有し、

前記トランジスタ部は、第 1 のトランジスタを有し、

前記発光素子は、第 2 のトランジスタを有し、

前記第 1 のトランジスタおよび前記第 2 のトランジスタは、前記第 1 の可撓性基材上に
設けられていることを特徴とする入力装置。

【請求項 2】

第 1 の可撓性基材と、

第 2 の可撓性基材と、

前記第 1 の可撓性基材と前記第 2 の可撓性基材との間の封止材と、

検知回路と、

発光素子と、を有し、

前記検知回路は、トランジスタ部と、第 1 の容量と、第 2 の容量と、を有し、

前記トランジスタ部は、第 1 のトランジスタを有し、

前記発光素子は、第 2 のトランジスタを有し、

前記第 1 のトランジスタおよび前記第 2 のトランジスタは、前記第 1 の可撓性基材上に設けられ、

前記第 1 の容量の上部電極は、前記第 2 の容量の下部電極と共通した導電膜を有し、
前記第 2 の容量の下部電極は、前記発光素子の下部電極と同一層に設けられ、且つ同一導電性材料を有することを特徴とする入力装置。

【請求項 3】

請求項 1 又は請求項 2 のいずれかーにおいて、

前記第 1 のトランジスタは、遮光層と重なる領域を有することを特徴とする入力装置。

【請求項 4】

第 1 の可撓性基材と、

第 2 の可撓性基材と、

前記第 1 の可撓性基材と前記第 2 の可撓性基材との間の封止材と、

検知回路と、

発光素子と、を有し、

前記検知回路は、トランジスタ部と、第 1 の容量と、第 2 の容量と、を有し、

前記第 1 の容量の上部電極は、前記第 2 の容量の下部電極と共通した導電膜を有し、

前記第 2 の容量の下部電極は、前記発光素子の下部電極と同一層に設けられ、且つ同一導電性材料を有することを特徴とする入力装置。

【請求項 5】

請求項 1 乃至請求項 4 のいずれかーにおいて、

前記検知回路は前記第 2 の可撓性基材の表面に物体が近接もしくは接触することを検知することを特徴とする入力装置。

【請求項 6】

請求項 1 乃至請求項 5 のいずれかーにおいて、

前記発光素子の上部電極はスリットのあるマスクを用いて形成されたことを特徴とする入力装置。

【請求項 7】

請求項 1 乃至請求項 6 のいずれかーにおいて、

前記第 1 のトランジスタは酸化物半導体を半導体層に用いることを特徴とする入力装置

。

【請求項 8】

請求項 1 乃至請求項 7 のいずれかーにおいて、

前記第 2 のトランジスタは酸化物半導体を半導体層に用いることを特徴とする入力装置

。